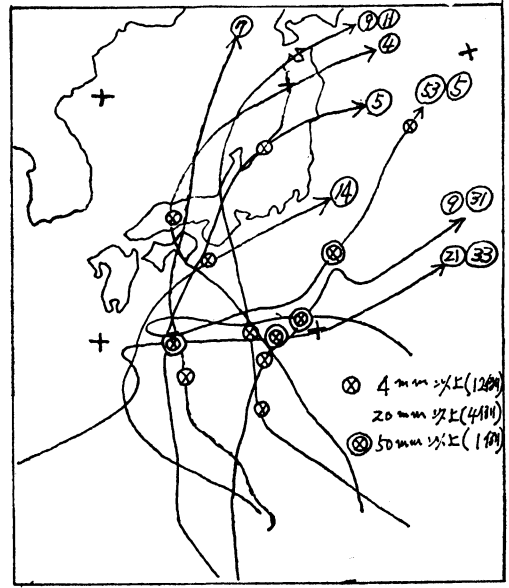


第8図(2) 降雨日の台風(九州通過)の位置と経路(円内数字は日雨量)



第8図(3) 降雨日の台風(東方通過)の位置と経路(円内数字は日雨量)

以上の降雨日であった。

7. む す び

今回とり扱った干害資料も気象資料も決して十分とは云えないが、基礎調査の役割は果していると思う。この種の防災上のテーマについて今後とも調査を続行しなければならないが、現象やそれぞれの災害を定義するこ

と、災害の起こり方の経年変化を明らかにすること、現象を予想すること、などの重要な問題点が残されており、今後そのような方向にまで発展させたい。

参 考 文 献

合田勲, 1954: 夏期干ばつについて(第1, 2報), 研究時報, 6, 360~368, 369~374.

訂正 Vol. 14, No. 6 掲載の大竹・Blake 論文に重大な誤植があるので、ご訂正下さい。

	誤	正
p. 209	本文左欄上から9行目	components
	〃 10行目	parhelia
	右欄上から6行目	Gallf
	下から12行目	18:00
p. 210	上欄外柱	Fairbanks
	本文左欄上から9行目	第5図
	右欄上から2行目	Mcgraw
p. 212	写真第5図説明	1966年4月27日18時
		1966年4月27日13時